

地域日本語教室／香美市芸術祭

地域日本語教室

立ち上げの背景

日本語以外を母国語として来日する外国人が、日本語の学習機会の提供を通じて、外国人が生活に必要な日本語を習得するとともに、日本人も外国人も地域の一員として共に認めあえるよう、外国人、地域のボランティア、雇用主等が互いに交流して、相互に文化を理解し、尊重しあえる地域コミュニティ醸成の土台とするため、地域日本語教室を開設します。

令和6年度の取組

- R6. 9月 香美市在留外国人に対するニーズ調査
- R6. 11月 ベトナム交流会開催
(主催：高知県国際交流協会)
- R7. 2月 日本語教室活用推進セミナー
(主催：高知県中小企業団体中央会)
- R7. 3月 ボランティア養成講座を4回実施

令和7年度以降の取組

- 『かみしにほんごサロン』を 5月から毎月1回実施予定
- ボランティア向けスキルアップ講座を実施予定

香美市芸術祭

市内の文化・芸術活動の発表、交流のため、市内の文化サークルが協力して年に1回開催しています。

令和7年度開催予定

- ◆写真審査会
9月24日(水) 19:00～21:00 香美市役所 3階会議室
- ◆短歌会・俳句会
10月4日(土) 13:30～15:30 香美市役所 3階会議室
- ◆社交ダンス発表会
10月13日(月・祝) 13:00～16:00 中央公民館
- ◆文化展
10月25日(土) 9:00～17:00
10月26日(日) 9:00～16:00 プラザ八王子又は中央公民館
- ◆芸能大会
10月19日(日) 11:00～15:00 中央公民館
- ◆土佐山田町合唱団定期演奏会
11月16日(日) 14:00～16:00 中央公民館



27 よってたかって教育

探究のまち香美市 よってたかって生涯学習フォーラム

1 目的

「探究のまち香美市」の目指す教育を市民に周知し、主体的な学びや探究的な活動を推進するとともに、子どもも大人も皆なで学び合い高め合いながら市民間のつながりを育むことを目的として開催しています。

2 内容

●Kamiプロジェクトアワード・・・25団体 ●ポスターセッション・・・48団体 ●舞台発表・・・8団体
●体験コーナー・展示・教室・講座・・・・・・24団体 ●物品販売・飲食出店・・・・10団体 ○ドローン教室 ○ペタンク教室

3 成果

香美市民をはじめ多くの方々に参加していただくため、探究成果発表会をはじめ飲食物の販売やドローン教室など様々な企画に取り組みました。昨年度から実施している「Kamiプロジェクトアワード」では、子どもから大人まで幅広い年齢層から応募をいただき、昨年度を6チーム上回る25チームからエントリーがあり、一次選考を通過した7チームの発表がフォーラムを大いに盛り上げました。

また、イベント企画には昨年度を上回る延べ1,000人を超す方々が参加し、総来場者数が3,700人を超えたことは大きな成果であり「探究のまち香美市」をPRする良い機会となりました。今後も香美市民が当フォーラムを通して探究活動へ関心を高め、年齢を超えて互いに学び合うとともに、市民間のつながりを育む場となるよう取り組んでいきます。



令和6年度実績：2025年2月15日(土)実施

来場者数 約3,788人 (対前年比+188人)

※来場目標2,500人【目標達成】



27 よってたかって教育

教育の充実「香美市よってたかって教育」

香美市よってたかって教育の実現

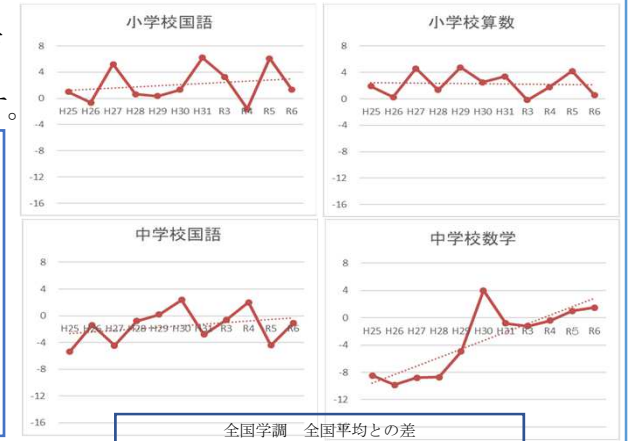
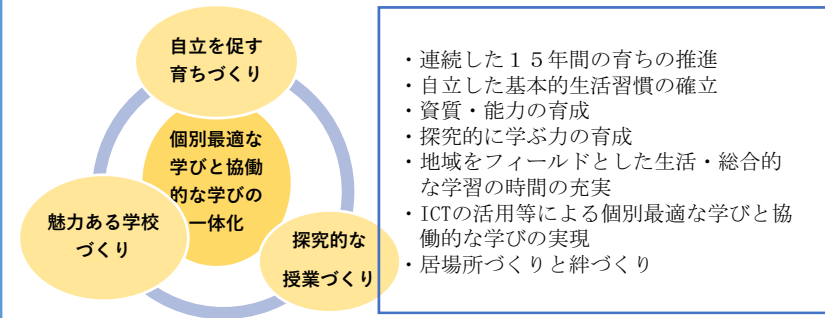
子どもの育ちを「よってたかって」みんなで考え、地域の学びや活動と子どもをつなぎ、その成果を、未来へつないでいくことを目指しています。



【目的】①持続可能な地域を創る人材の育成 ②これからの時代に必要となる学力向上 ③探究的に学ぶ力の育成

POINT 1 「育ち」と「学び」をつなぐ小中一貫教育

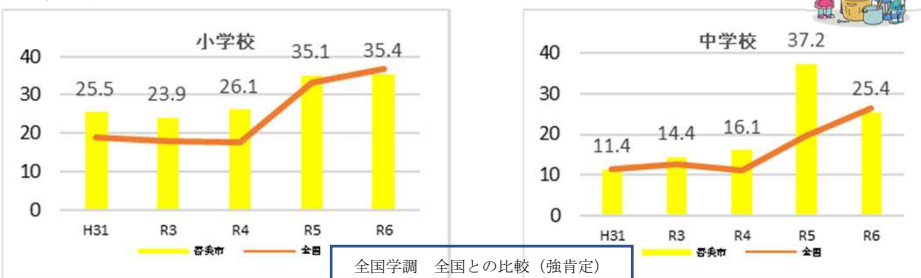
★ 3つの視点で縦軸と横軸の繋がりある教育を実現します。



POINT 2 「地域とともにある学校づくり」

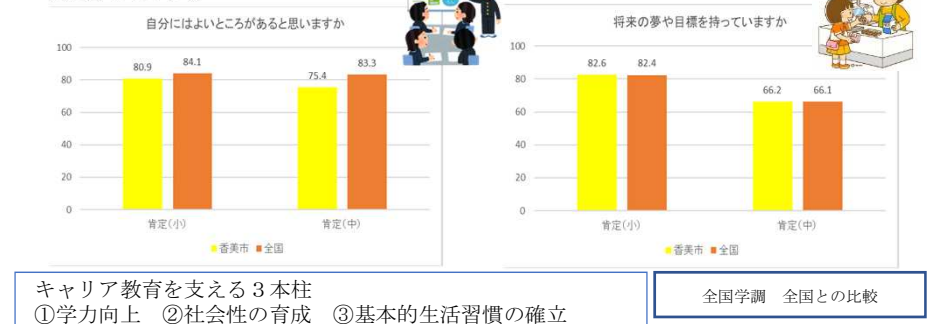
★「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」との連携・協働により、持続可能で特色ある学校づくりを目指します。

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



POINT 3 「子供の『なりたい!』を後押しするキャリア教育の充実

★多様なひと・もの・こと等の関わりを通して豊かな人間性・社会性を育成します。



27 よってたかって教育

教育の充実「香美市よってたかって教育」

取組方針：地域や学校の特色を活かし、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した教育の充実を図ることで、保幼小中学校間の滑らかな接続と子供の育ちや付けたい力をもとにした系統性のある指導や支援を目指す

取組	「育ち」と「学び」をつなぐ小中一貫教育	地域とともにある学校づくり			「子供の『なりたい!』」を後押しする キャリア教育の充実
	小中一貫教育による教育活動の一貫性と系統性を重視した取組の強化	コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を核とした学校経営の充実			香美市の教育資源を活用し、キャリア教育を支える3つの柱（学力向上・基本的生活習慣の確立・社会性の育成）を基盤とした取組
中学校区の特色及び現状	○鏡野中学校区：ランドデザインに基づく小中一貫教育研究 ○香北中学校区：国際バカロレア教育の推進 ○大栃中学校区：個別最適・協働的な学びの実践（物部みらい学）  ○研究体制 学びをつなぐ学校づくり研究会 （柱：教育目標の一貫性・教育課程の一貫性・児童生徒理解の一貫性）	平成31年度より、コミュニティ・スクールが全学校でスタート	学校運営協議会	実施回数	各中学校区ごとの地域のモデル（先達や活性化に貢献している人々等）に学ぶ交流実践
	鏡野中学校運営協議会		4回		
	舟入小学校運営協議会		4回		
	山田小学校運営協議会		4回		
	楠目小学校運営協議会		5回		
	片地小学校運営協議会		6回		
	香長小学校運営協議会		6回		
	大宮小・香北中学校運営協議会		5回		
	大栃保小中学校運営協議会		6回		
	鏡野中学校区小中連携協議会		2回		
主な具体策	○「育ち」 ・連続した15年間の育ちの推進 ・自立した基本的生活習慣の確立 ・居場所づくりと絆づくり ○「学び」 ・資質・能力の育成 ・探究的に学ぶ力の育成 ・ICT活用等による個別最適な学びと協働的な学びの実現 ○県指定事業 ・小中学校教員の乗り入れ授業・教科担任制度の活用 ・授業づくり講座・学校安全教育推進事業 ・言語能力・情報活用能力育成プラン・自然体験型学習事業（山の学習支援事業） ・英語教育改善プラン推進事業	○「目指す子どもの姿」の明確化と共有 ○鏡野中学校区の小学校と中学校の連携強化のための体制づくり ○学校運営協議会と地域学校協働活動の連携の充実（中学校区・家庭・地域の活動計画）			○キャリアチャレンジデイの実施（全中学校中2年生対象） ○キッズチャレンジデイ（全小学校対象） ○キャリアシートの活用（小中高と継続）
3つの取組をつなぐ	地域資源を活用した「探究的な学び」（生活・総合的な学習の時間）の充実				

27 よってたかって教育

令和7年度 香美市の不登校児童生徒支援対策の取組

取組方針 ◆学校、家庭、教育委員会や関係各機関が連携し、一人一人の児童生徒に寄り添い、不登校の未然防止、初期対応、自立支援の各段階に応じた取組を実施することにより不登校児童生徒の出現を抑制する				
ステージ	未然防止	初期対応	自立支援	個別の支援
対象	全ての児童生徒		不登校傾向・不登校状態にある児童生徒	長期にわたり不登校の状況が継続している児童生徒
取組内容	魅力ある学校づくりの取組	早期発見・早期対応の取組	不登校が本格化、長期化しないための予防的支援の取組・多様な学びの場の保障	自立支援の取組
取組内容の具体	○わかる授業づくり ・学ぶ意欲を引き出すわかる楽しい授業づくり ・補充指導の充実 ○心の居場所づくり ・人権が尊重された安心・安全な居場所づくり ○多様な絆づくり ・主体的に取り組む活動を通した仲間づくり ○緩やかな課業期間の確保 ・各学期初めの校時程を半日程度の設定にする ○QUアンケート、「きもちメーター」の活用 ○小中一貫教育による教育活動の一貫性と系統性を重視した取り組みの強化 ・小中学校教員の乗り入れ授業 ・教科担任制度の活用	○新規不登校の抑制に向けた学校の取組強化 ・不登校担当者を中心とした「兆し情報」の収集や活用、組織的な支援体制の構築 ・「欠席3日調べ」による家庭訪問等早期対応の徹底 ・特別支援コーディネーターを中心としたSCやSSW連携（各学校への派遣事業）、校内支援会の充実 ※SC派遣事業…5名配置。各学校に週1日×6時間×37週～40週もしくは週2日×7時間×38週、土曜日に月2回 ※SC…スクールカウンセラー SSW…スクールソーシャルワーカー	○校内サポートルームの活用 ・教室での集団学習に適応できない生徒の校内支援を行う（個別指導・ICTを活用した学習支援等） ・初期の段階からの支援開始により、児童生徒の登校・学習意欲を持たせた自立支援の実施（各家庭との相談活動等） ※教室運営等コーディネーター・放課後等学習支援員配置	○学校・教育支援センターだけでは支援が難しい児童生徒のための個別の支援 ・医療・福祉等関係機関と連携し、専門的なアセスメントに基づく児童生徒理解や支援について学校、教育支援センターに指導助言、家庭訪問による指導助言
			○教育支援センター（ふれんどる一む）の活用 ・支援を必要とする児童生徒への学習機会の保障と一人一人の心理状態や学習進度に応じた学習支援 ・児童生徒が安心できる居場所の提供 ・保護者面談等による保護者支援及び家庭訪問等による相談活動 ・学校・家庭との緊密な連携・交流により学校への復帰サポートを実施 ※SSW 3名、SC 1名、相談員1名、教科支援員3名、支援員4名配置	
その他	○必要に応じた医療・福祉等関係機関と連携した個別の支援・合理的配慮の実施 ○それぞれのステージの取組は複合的に実施をされる			
役割	子どもたちが夢や志をもち、元気に学ぶ学校づくり			
教室復帰・学校復帰・進路実現・社会的自立に向けた取組				